

株式会社寺岡精工におけるデザインと その保護の取り組み

株式会社寺岡精工 クリエイティブデザイン 室長 横野周作
知的財産規格部 係長 弁理士 福田哲也

1 寺岡精工について

株式会社寺岡精工は1934年の創立以降、重さを「量る」という商取引の基本行為を担う秤をスタートに事業を展開してきました。

創業者寺岡豊治は、当時天秤ばかりが主流だった中、重さを針で指し示すという「自動バネ秤」を開発・実用化し、バネ秤を世間に広めました。

1965年には自ら広めたバネ秤の常識を打ち破り、重量値を数字として表示する世界初の電子料金秤を販売しました。

海外でのブランドネーム「DIGI」は、1973年に販売し大ヒットした電子秤の製品名に由来するものです。

以後は秤にとどまらず、計量に付随する業務（値付け、包装、商品登録、精算、仕分けなど）を併せて自動化する機器を次々と開発、現在の主力製品は包装機・ラベルプリンター・POSレジスターなどとなっています。

特に、2010年に当社が初めて開発・実用化した、店員が登録機で商品登録を行い、精算機で買物客が精算を行うセミセルフレジ「スピードセルフ」は、「スピードこそサービス」という新機軸を打ち出し、今では買い物の「新しい常識」となっています。

以下、当社についてのちょっとしたトピックを2つご紹介します。

1つは、「空には光 地に緑」ではじまる当社の社歌は、2020年のNHK連続テレビ小説『エール』のモデルとなっている古関裕而氏が作曲しています（なお作詞は「悲しき口笛」「東京キッド」などで知られる藤浦洸氏）。

もう1つは、元特許庁意匠課長で長らく意匠法の基本書であった『意匠』（工業所有権実務双書、1969年 有斐閣）の著者である高田忠氏は、旧通産省計量課長も歴任していたことが縁で、当社の相談役を長年務めていました。

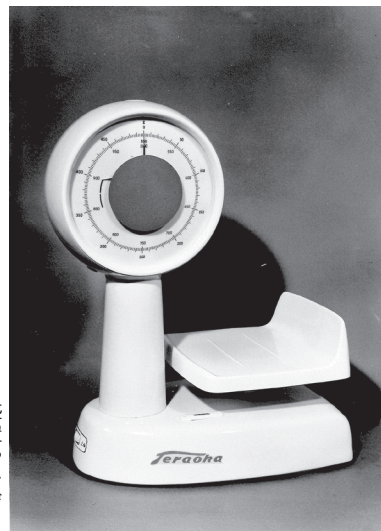
2 当社のデザインへの取り組み

1) 寺岡精工のデザイン

当社は1928年に寺岡敏感自動バネ秤を発売して以来「はかりの寺岡」として広く世に知られ、1962年には戦後日本のインダストリアルデザインの功労者と言われる柳宗理氏がデザインをしたバネ秤「パール」（意匠登録第137975号）【写真1】が業界初のグッドデザイン賞を受賞しました。

1992年にインハウスデザインを開始し、今現在は寺岡精工グループのサービス部門「クリエイティブデザイン」として、開発する製品ほぼすべてのデ

●写真1 柳宗理氏デザインの「パール」



人間工学を考慮して、目盛板は人の目の高さに配置し、載せ皿は品物を載せやすい低い位置に配置。インテリア効果を追求したデザインが評価された